



『われわれはどこへ行くのか』



2009年名古屋ポストン美術館でゴーギャン展。本作が来るというので、“これは行かなければ!”。普段はほとんど買わない図録も購入。

「運」を温存?!

「わたし運がいいんです。だからむやみに使わないようにしているんです」。自然な感じでこう言う方も珍しい。

なぜそう思うのか尋ねてみると、おお、たしかにそれは凄いと呻るいくつかの経験。

ご本人によると、日頃から人に嫌な思いをさせないように心がけているのだとか。誰にでも丁寧に笑顔で接するよう努めているといいます。『笑う門に福きたる』。

国会図書館に納本

2001年に製作した『哲樂の中庭』。棚の奥に30冊ほど残っているのを見て、“なんとかしてしまおう”。そこで思い立った1つが国立国会図書館への納本。案内にそって「ダメもと」で送ったところ、『受付けます』。今では蔵書検索も可能になり、なんだか自分の生きた証をこの世にひとつ残した気分です。

LEE'S リーズ
〒530-0012
大阪市北区芝田2-8-15
北梅田ビル35号
パーソナル・アシスタント
リー・ヤマネ・清実

10月初めにトヨタとソフトバンクが「モビリティ」で連携するニュースが大きく報じられました。AIが日本で商用化されると新聞に載ったのは2014年暮れ。予想したとおり瞬間に社会に浸透してきた昨今です。

『われわれはどこへ行くのか』。仕事でもよく引用しているゴーギャンの絵のタイトルの一部ですが、このところは頻りに頭に浮かびます。本当にわたしたちはどこへ行くのでしょうか。

“ひょっとしたら、上の世代の人たちもこんな感じで世の中を見ていたのかも・・・”。戦中から戦後を生きた人の目に社会の変化はどう映ったことでしょうか。急転した教育、モノのない暮らしから溢れる消費生活、テレビのない日常から朝から深夜までテレビ。

モノが豊かになり、暮らしの中に新しい娯楽が生まれ、それらに慣れていく人間、社会。まさに『社会の構造が変われば、人の意識が変わる。意識が

変われば、行動が変わる』。

1934年生まれの「中井久夫」は『私の日本語雑記』（2010年）の中で、人間は「一種食物連鎖のようなものをつくり出してしまったのではないだろうか」と書いていました。

言っていると思います。でも一方で必ず、それでいいのだろうかと考え行動する人がいる、必ず現れるのも人間社会。世の中がどう変わろうと変えてはいけないことを守ろうと。

1900年生まれの「中井正一」は『美学入門』で、「大体の人々は価値あるものとして、〈真実であること〉、〈善良であること〉、〈美しくきれいであること〉の三つを好む」と書きました。

「フェイク」に惑われず、「同調圧力」に吞まれず、「自分ファースト」に陥らず、自他ともに良く生きようとする人たちに価値をみて、この先もわたしは行こうと思う2018年立冬です。

「見聞感考」聞いてみて新鮮、知って見て自然

今年も塾やセミナーをいくつか担当しました。〈自分ならではの・自社ならではの〉の仕事と人生を考え、考えたことをアプトプットする機会です。

講師としては、受講者のみなさんの〈自分ならではの〉がどこにあるのか、「あの手この手」で探るわけですが、その一つが『800字メッセージ』。

何をやりたいのか、何故やりたいのか、目指すところはどこか。そういったことを書くのです。タイトルは自由につけて、一番伝えたい人を想定して書くように勧めます。

これまでかなりの数のメッセージに接しました。みなさん、けっこう率直

に書かれます。読むたび、心に迫り、響き、感嘆、感服します。

ある方は今はなき愛犬に語りかけるように書かれました。人生の数々の変遷、そのどんな時でも心の支えになってくれた愛犬への恩返しに描く事業構想。慈しみ、温かみの文体と内容は絵本の物語を読むようでした。

初日の短い自己紹介では知りえなかった深い思い、過去から現在までのその人のもつ背景。“そうだったのか・・・”。本当に人の人生は色々です。あらためて感じ入りました。

誰かの人生に束の間立ち合せて、アシストできて、仕事冥利に尽きます。